

平成28年度奈良県がん予防対策推進委員会（第2回）

議 事 要 旨

日時：平成29年3月16日（木） 午後6時～8時

場所：かしはら万葉ホール 5階 特別会議室

出席者：（委員） 赤羽たけみ、伊藤高広、植田多永子、浦嶋偉晃、小林豊樹、小林浩、小山文一、山科幸夫、山田全啓、吉岡敏子（五十音順）

議題（1）平成27年度市町村がん検診受診率（暫定値）について

○委員からの意見

- ・市町村ごとのがん検診実施状況を市町村に対して示し、自市町村の状況を他市町村と比較検討することが重要で、症例検討会等の研修会へ参加されるなど意識の向上が必要である。
- ・がん発見の多い市町村から症例提供を行うなど、研修会内容の充実が必要である。
- ・大腸がん検診の精検受診率の低さが課題であったが、今年度は国の許容値を超えている。
- ・子宮頸がん検診については、ASC-US 結果をベセスダ分類となっており、日母分類は廃止されたが、開業医の中には検査業者に日母分類での結果を要求しているところがあると聞いている。ASC-US であった場合に要精検者と診断し、確実に精密検査につながるよう周知徹底が必要。
- ・乳がん検診は平成28年度から、検診方法が変更（マンモグラフィー単独）になっており、画像のみの診断になることで精度管理上、変更前と比較して見ていく必要があるのではないかと。

議題（2）がん検診の精度管理について

○委員からの意見

- ・個別検診実施機関の精度管理結果を公表する場合は、事前に周知が必要で、結果を単に数字で表すより基準を満たしているかどうかの結果を公表する方が分かりやすいのではないかと。
- ・個別検診実施機関への調査について、精度管理の観点から、県が、直接調査を行うなど検討されてはどうか。

議題（3）奈良県胃がん検診実施要領改定について

○委員の意見等

- ・県胃内視鏡検診実施要領については、内視鏡専門医、県医師会代表及び市町村代表等を構成員とした胃がん検診実施要領検討ワーキング会議において検討した結果、とりまとめられたもので、精度管理をしっかりと行い、安全性を担保することを念頭に置き、検診医・検診実施機関の体制を整えた上で、検診可能人数を考慮するという流れとなっている。胃がん検診は、X線検診もあるので、初年度は特に精度管理をきちんとしていくことが重要。